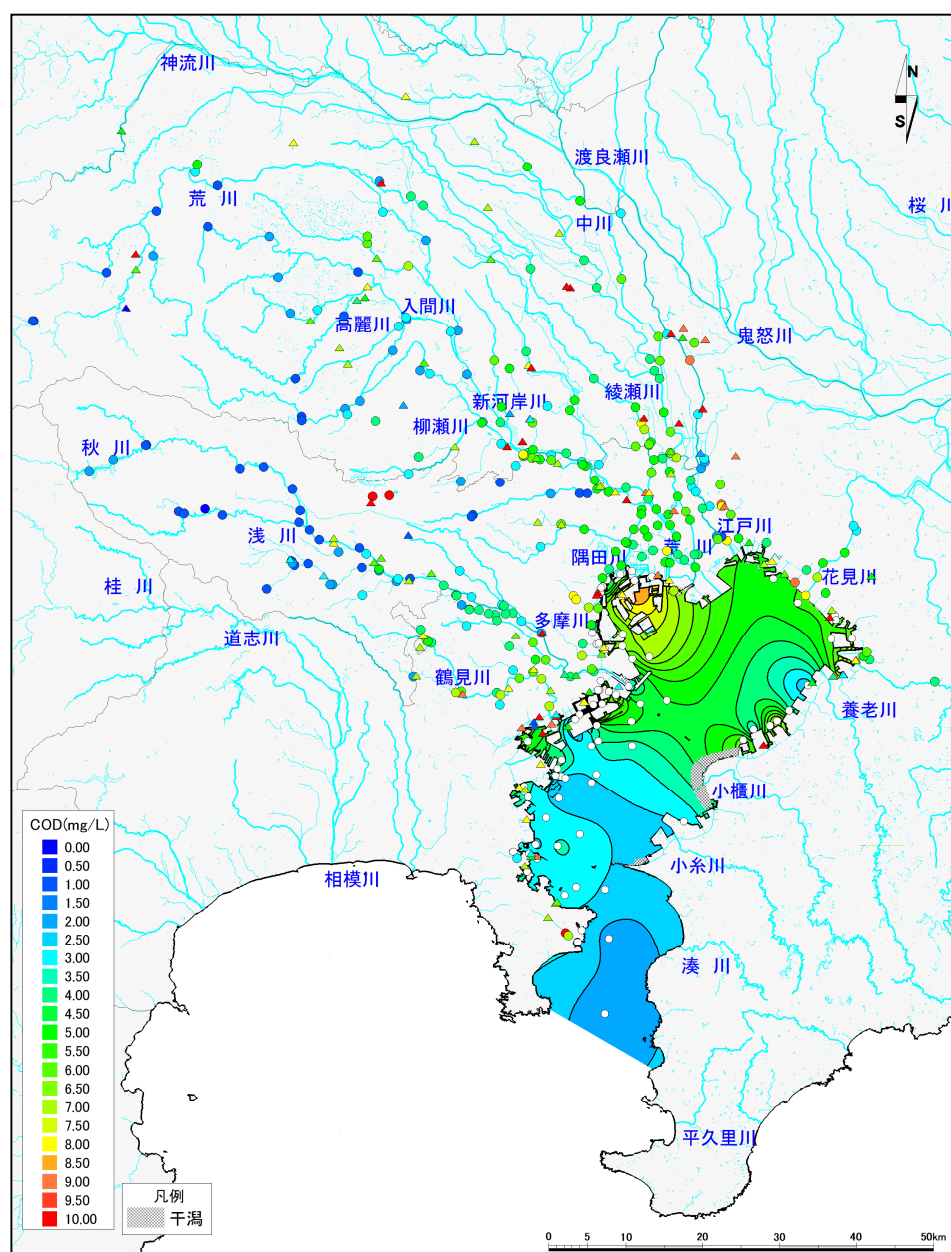


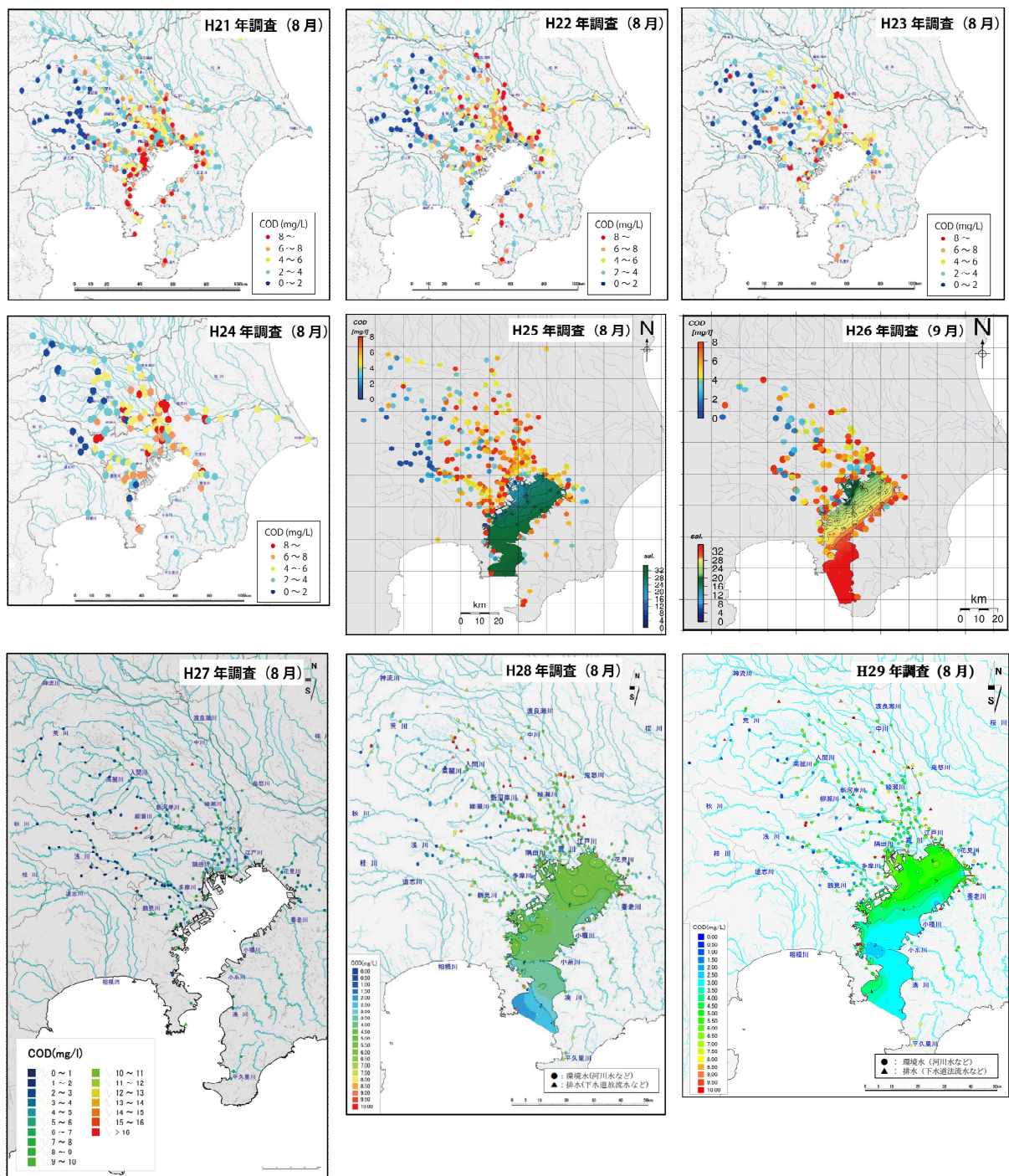
7. 化学的酸素要求量 (COD) の状況

令和元年 8 月の河川の COD の状況は、図 7-1 のとおりでした。平成 21 年から令和元年までの 12 年間の河川等の COD の状況を比べると図 7-2 のとおりでした。COD の値は、例年、都市郊外の河川上流で低く、市街地の発達した河川下流で高い傾向が見られますが、河川規模等の影響による違いもありますので、次項「8. 東京湾に流入する主な河川の状況」を参照してください。



●印は河川水等の環境水、▲印は下水道放流水等の排水を示す。

図 7-1 令和元年 8 月の COD の状況



調査基準日前後の調査結果を含む。(次頁へ続く。)

図 7-2 平成 21 年～令和元年 8 月（平成 26 年は 9 月）の COD 観測結果の比較

8. 東京湾に流入する主な河川の状況

東京湾及びその流域図を図 8-1 に示します。東京湾の流域には、東京湾に接する千葉県、東京都、神奈川県のほか、埼玉県が広い面積を持っており、茨城県、山梨県の一部も含まれます。東京湾流域の河川は、陸域から東京湾へ淡水とともに物質を供給する役割を持っており、流域の環境は東京湾の水環境に影響を与えています。東京湾に流入する主な河川としては多摩川、荒川、鶴見川、利根川水系があげられます。



図 8-1 東京湾及びその流域図

令和元年度東京湾環境一斉調査では、8月の河川等の水質調査のデータを収集しました。東京湾流域における主な河川の水温、流量、化学的酸素要求量(COD)、溶存酸素量(DO)、透視度の状況を、水系ごとに図 8-2 から図 8-31 に示します。

(1) 多摩川水系

多摩川本流の水温は、河口から日野橋までは概ね 26 ℃から 30 ℃で推移し、永田橋にて一旦上昇しますが日野橋より上流では低くなる傾向がありました。流量は、本流ではばらつきがありますが、河口から上流へ向かって減少する傾向があり、永田橋にて最も低い 1.68 m³/s と観測されました。支流では、距離に関わらず、いずれの観測点でも 5 m³/s 以下の流量が観測され、観測点ごとに大きな変化は見られませんでした。COD は、本流・支流ともにばらつきがありますが、概ね上流に向かうほど低くなる傾向がありました。DO は、本流・支流ともに、概ね 8 mg/L から 12 mg/L で推移する傾向がありましたが、支流の東中野橋では 14 mg/L を上回りました。透視度は、本流・支流ともにほとんどの観測点で測定最大限界である 100 cm を記録しました。

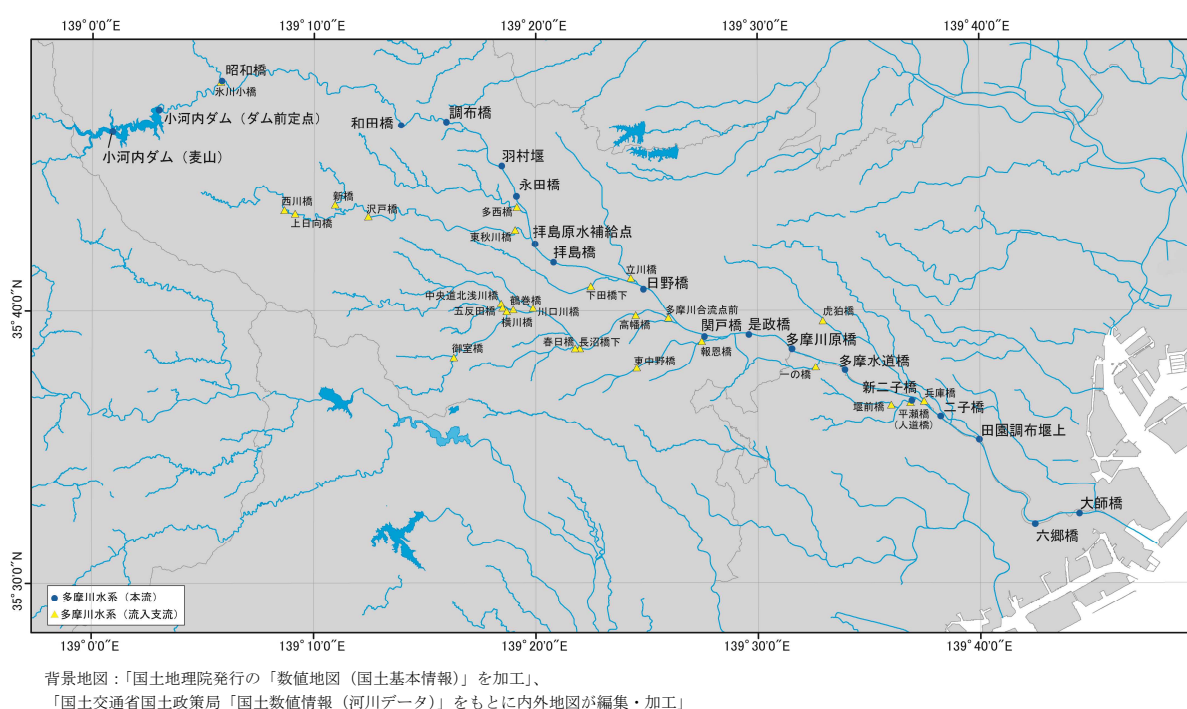
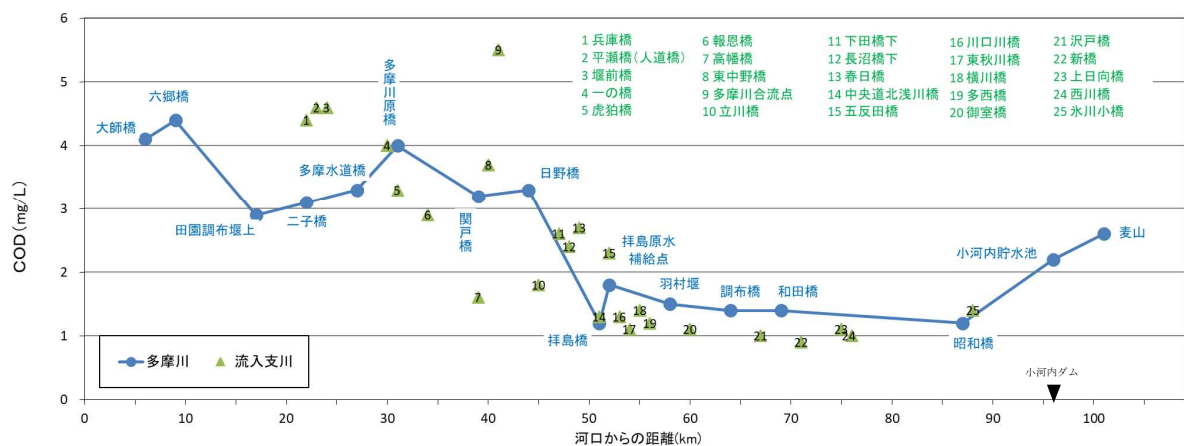
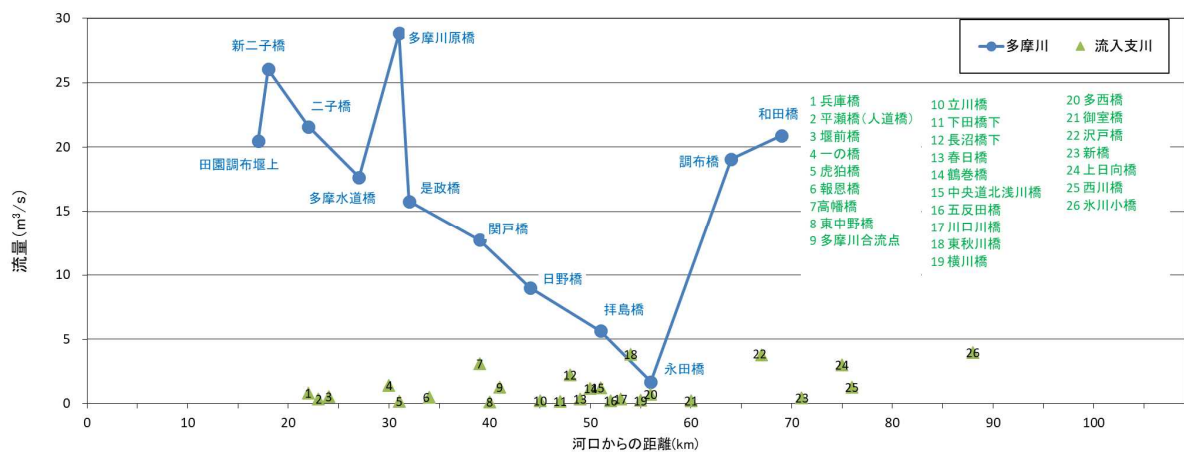
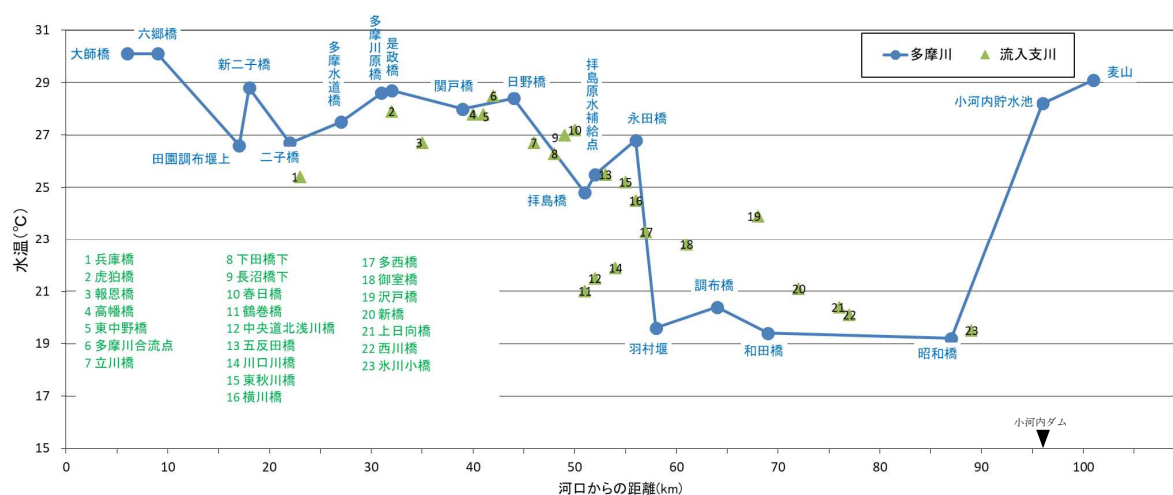


図 8-2 多摩川水系流域における調査点図



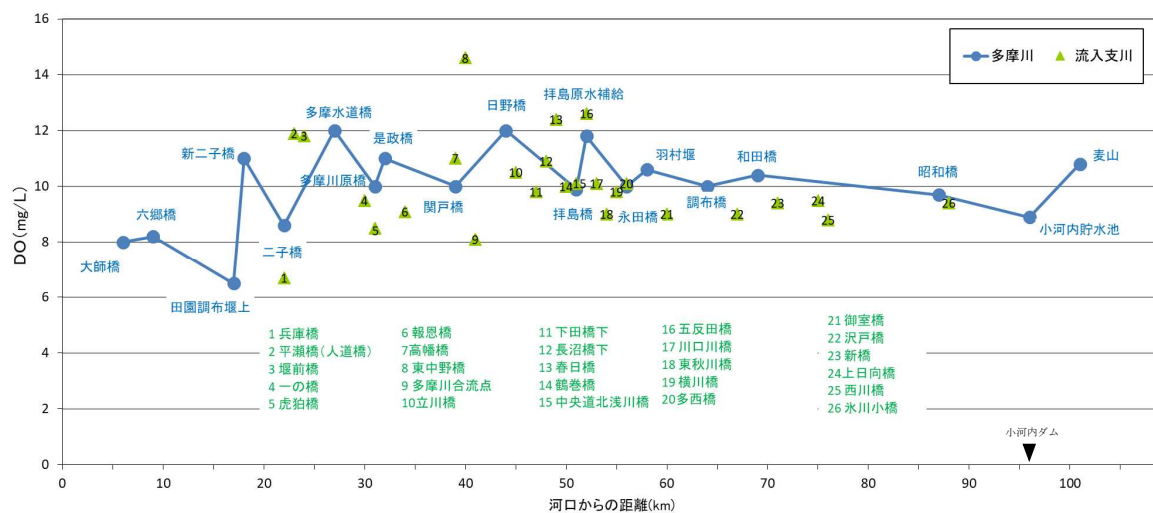


図 8-6 多摩川水系における DO（8 月）と河口からの距離の関係

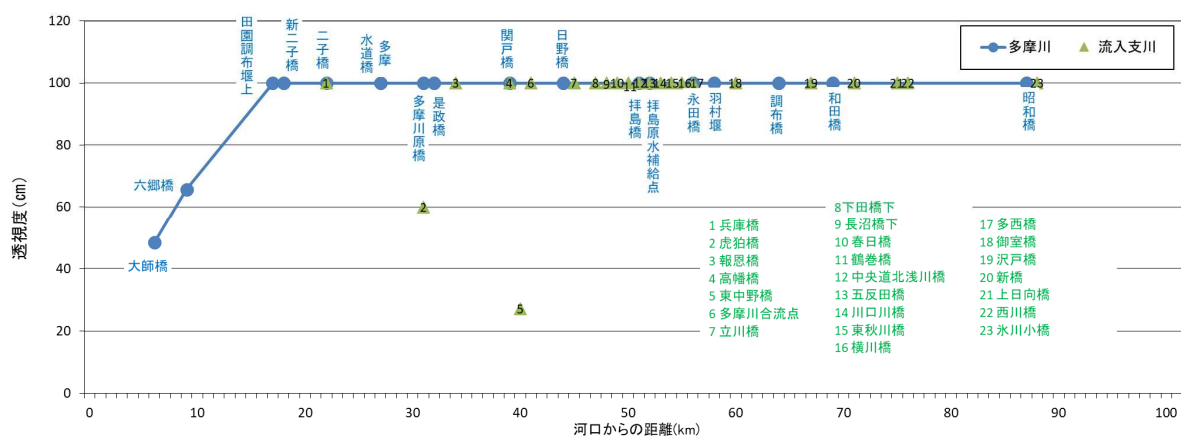
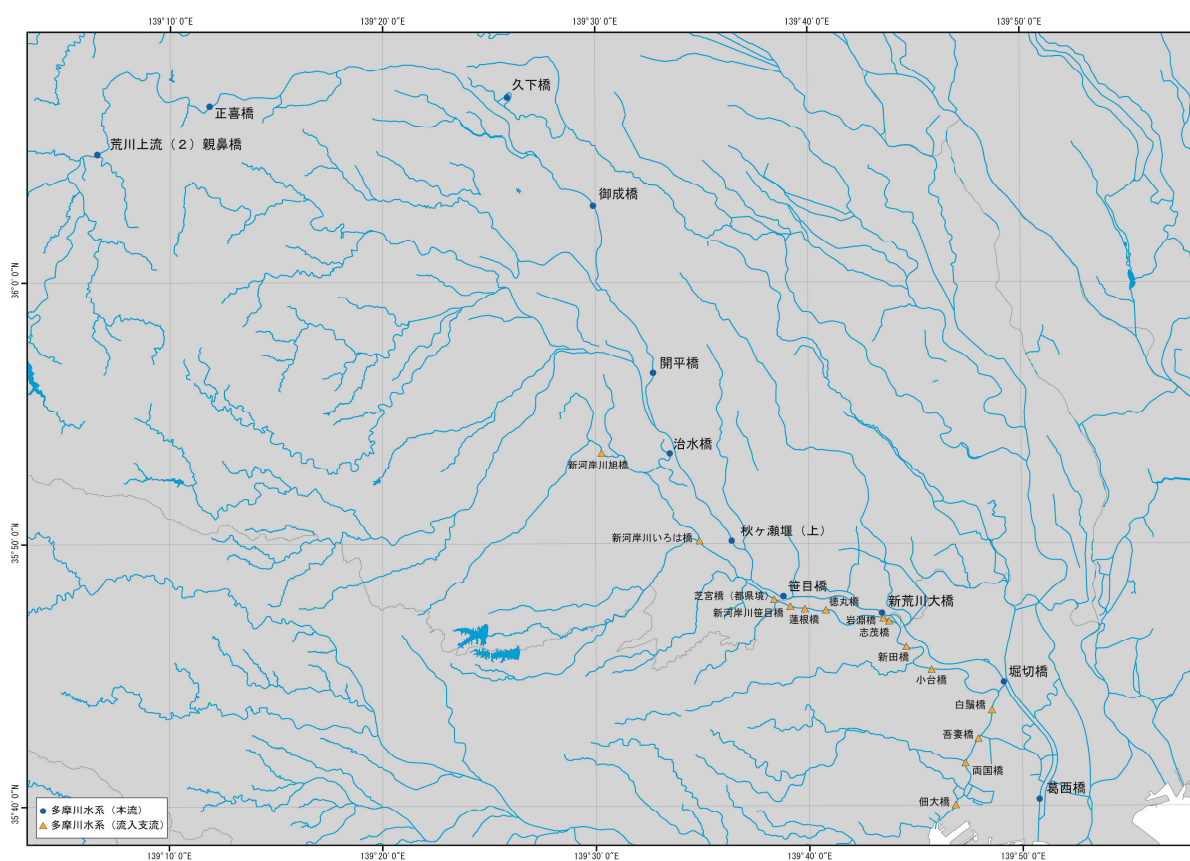


図 8-7 多摩川水系における透視度（8 月）と河口からの距離の関係

(2) 荒川水系

荒川水系の水温は、本流では、河口から 80 km までの全ての地点で 28 ℃以上の値が観測され、80 km より上流の地点から低下する傾向がありました。支流では 24 km 地点の志茂橋以降の上流から低下する傾向がありました。流量は、本流では開平橋までは 25 m³/s 以上で推移していた水量が、一旦、正喜橋、親鼻橋にて増加しますが下流へ向かい減少する傾向がありました。COD は、本流では河口から上流にかけて減少傾向がありました。支流では、一部を除き、本流と比べて高い値が観測されました。DO は、ばらつきはありますが本流・支流ともに河口から上流にかけて増加傾向がありました。透視度は、本流では河口から久下橋にかけてばらつきがありましたが、久下橋から中津川合流地点前にかけて測定最大限界である 100 cm を記録しました。支流では概ね 60 cm 以上で推移し、吾妻橋の 1 地点にて測定最大限界の 100 cm を記録しました。



背景地図：「国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」を加工」、
「国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに内外地図が編集・加工」

図 8-8 荒川水系流域における調査点図

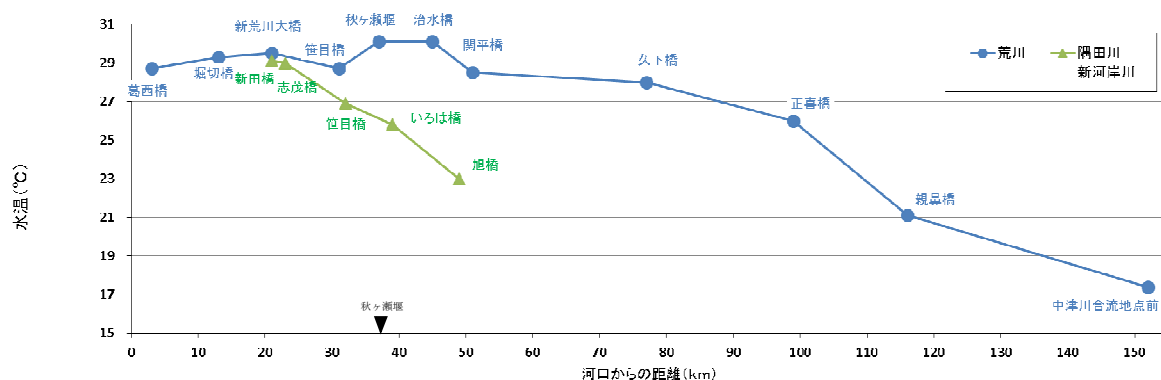


図 8-9 荒川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

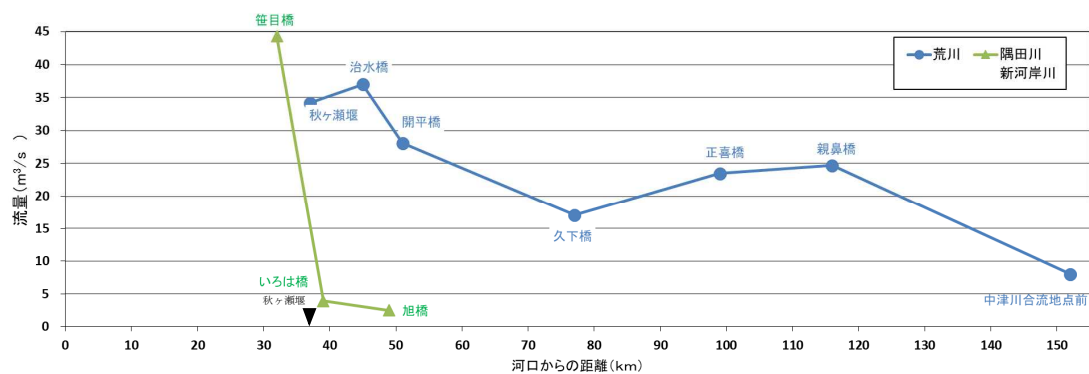


図 8-10 荒川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

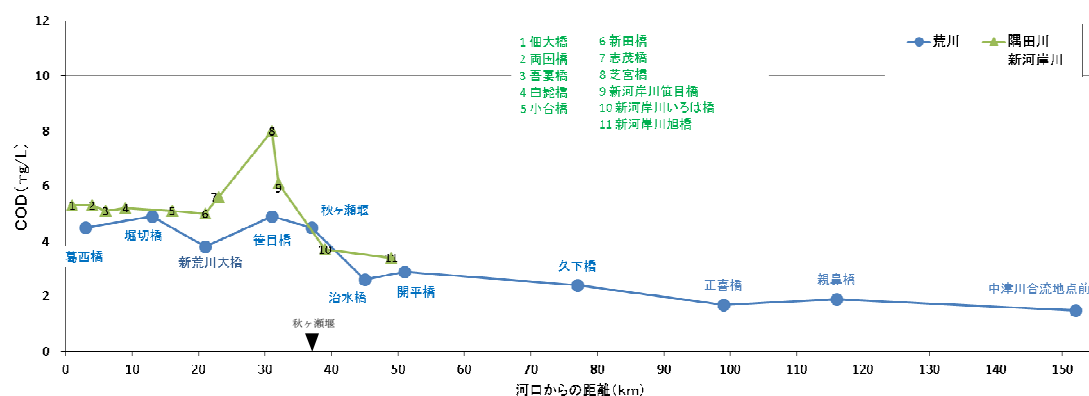


図 8-11 荒川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

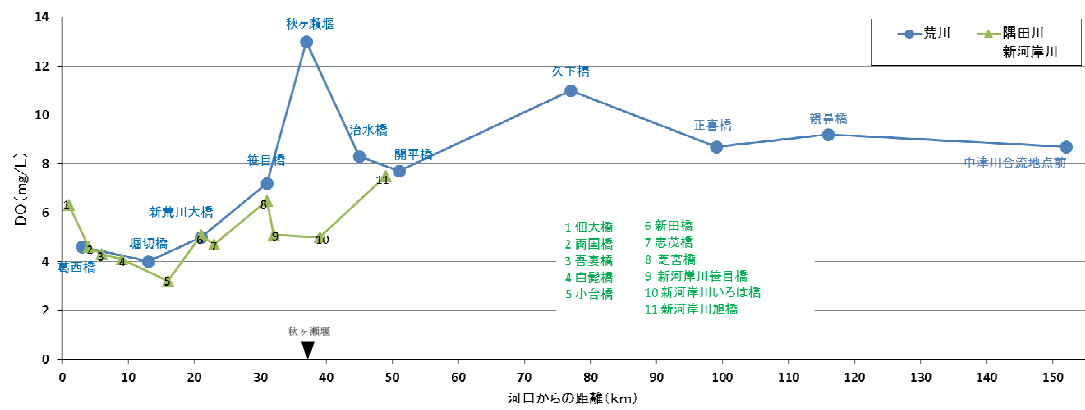


図 8-12 荒川水系における DO（8 月）と河口からの距離の関係

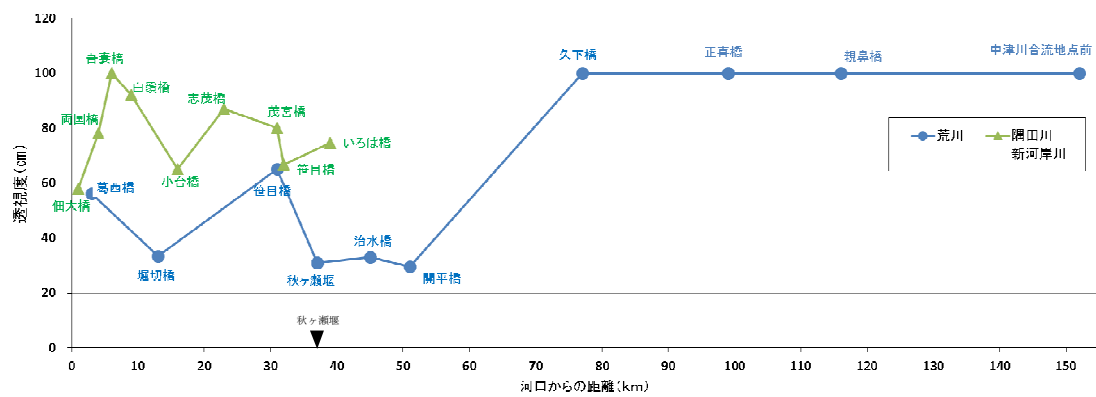
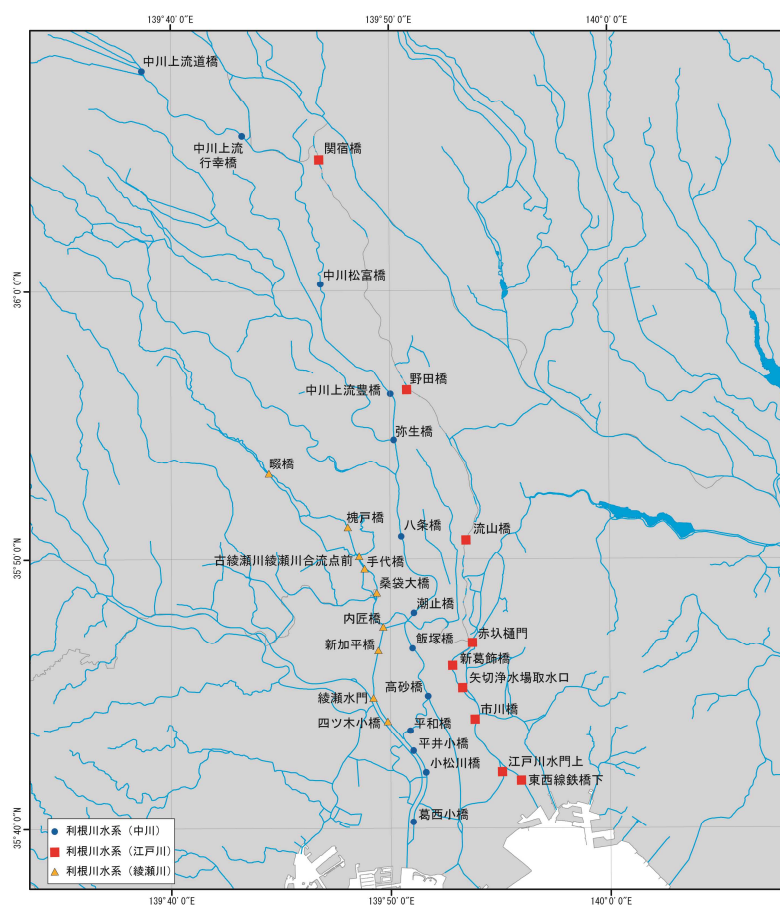


図 8-13 荒川水系における透視度（8 月）と河口からの距離の関係

(3) 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）

水温は、中川、江戸川、綾瀬川にて概ね 30 ℃以上で推移しました。各観測点における水温の平均は昨年の 29.7 ℃に比べ、約 1 ℃高い 30.8 ℃でした。流量は、いずれの河川でも河口から上流にかけて減少傾向がありました。特に江戸川では、減少量が新葛飾橋から流山橋までの約 9 km の間でおよそ 100 m³/s 減少しました。COD は、中川では 5.1～6.3 mg/L の間で推移する傾向がありました。江戸川では、東西線鉄橋下にて 8.5 mg/L、江戸川水門上では 2.6 mg/L と、下流域で最大と最小の値が観測されましたが、概ね 3.1 mg/L から 4.3 mg/L の間で値が観測されました。綾瀬川では、手代橋及び古綾瀬川綾瀬川合流点前で他の観測点と比べて高い値が観測され、それぞれ 7.0 mg/L、8.7 mg/L でした。DO は、中川では、河口から八条橋まではばらつきはありますが増加傾向にあり、八条橋から道橋にかけては減少し 5.4 mg/L から 6.9 mg/L の間で推移する傾向がありました。江戸川では、矢切浄水場取水口まではばらつきはありましたが、上流に行くほどゆるやかに減少する傾向にありました。綾瀬川では、河口から 20 km の観測点まで増加減少が繰返しあり、綾瀬水門で最も低い 3.6 mg/L が観測され、桑袋大橋より上流にかけては概ね増加傾向にありました。透視度は、江戸川の江戸川水門上にて測定最大限界である 100 cm を記録したのを除き、中川、綾瀬川、江戸川にて概ね 30 cm から 60 cm にて推移し、全体として上流から下流まで濁っているという傾向がありました。



背景地図：「国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」を加工、
「国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに内外地図が編集・加工」

図 8-14 利根川水系流域①（中川、江戸川、綾瀬川）における調査点図

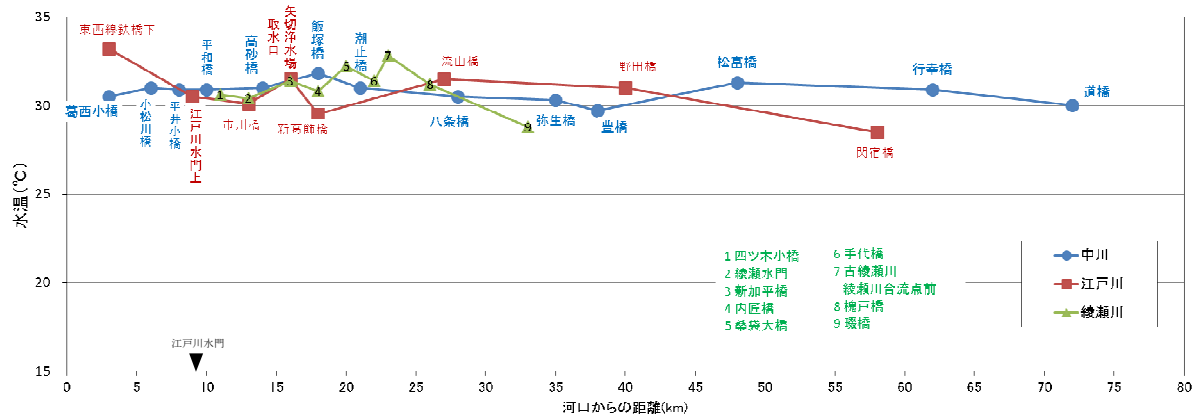


図 8-15 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における水温（8月）と河口からの距離の関係

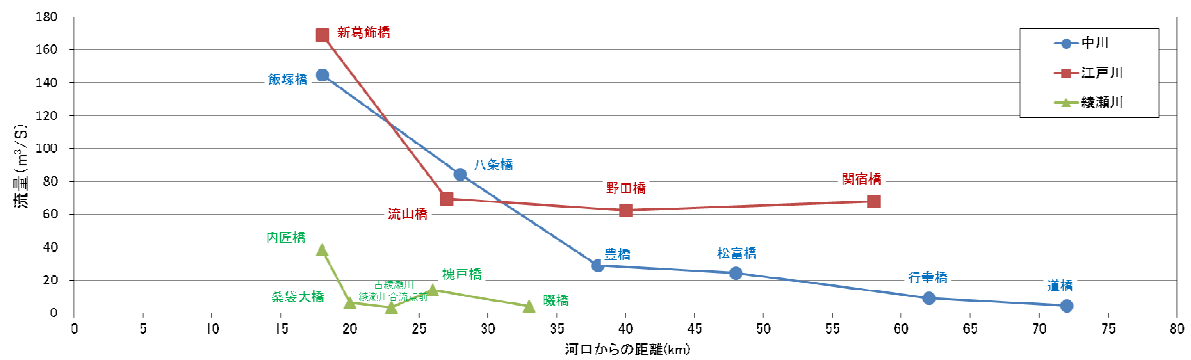


図 8-16 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における流量（8月）と河口からの距離の関係

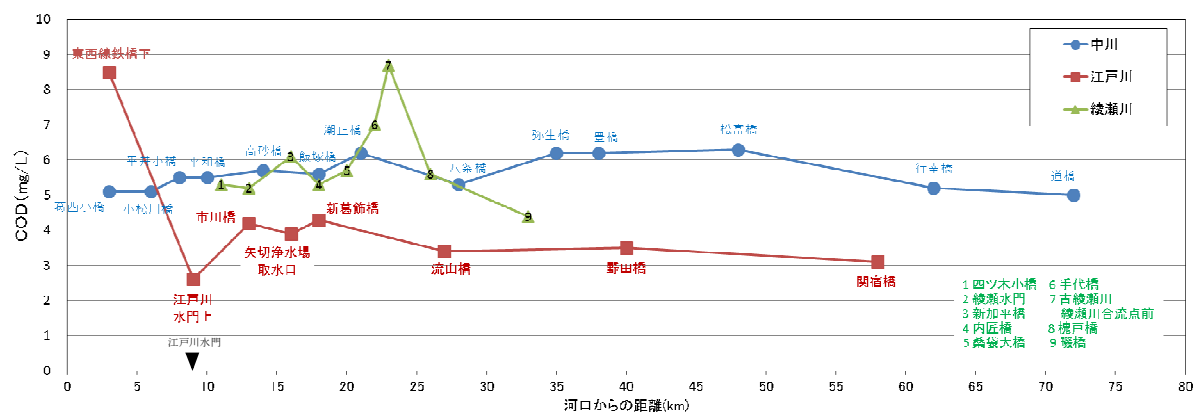


図 8-17 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における COD（8月）と河口からの距離の関係

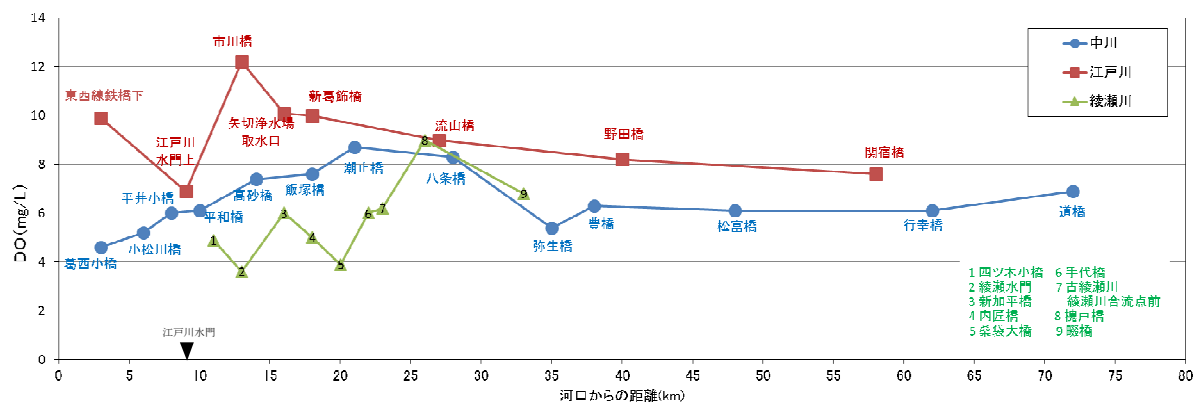


図 8-18 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における DO（8 月）と
河口からの距離の関係

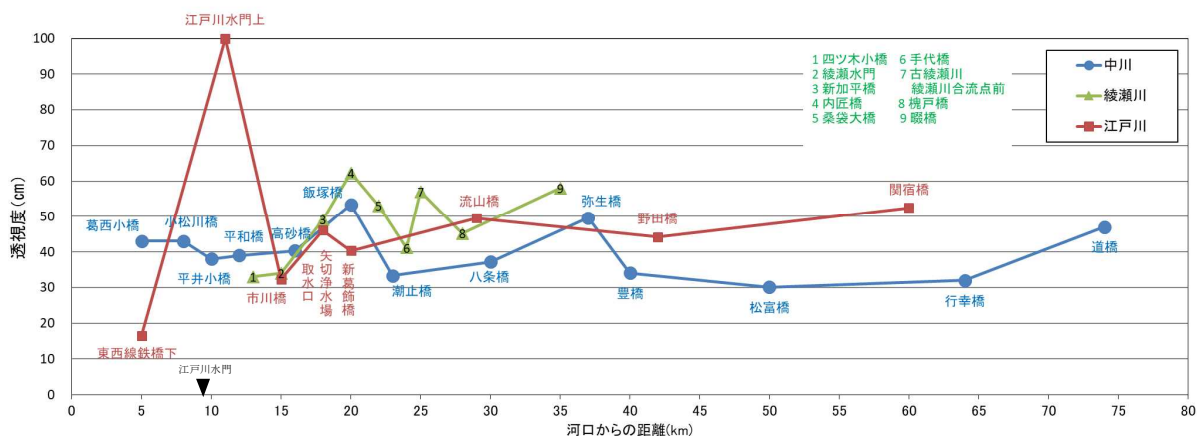
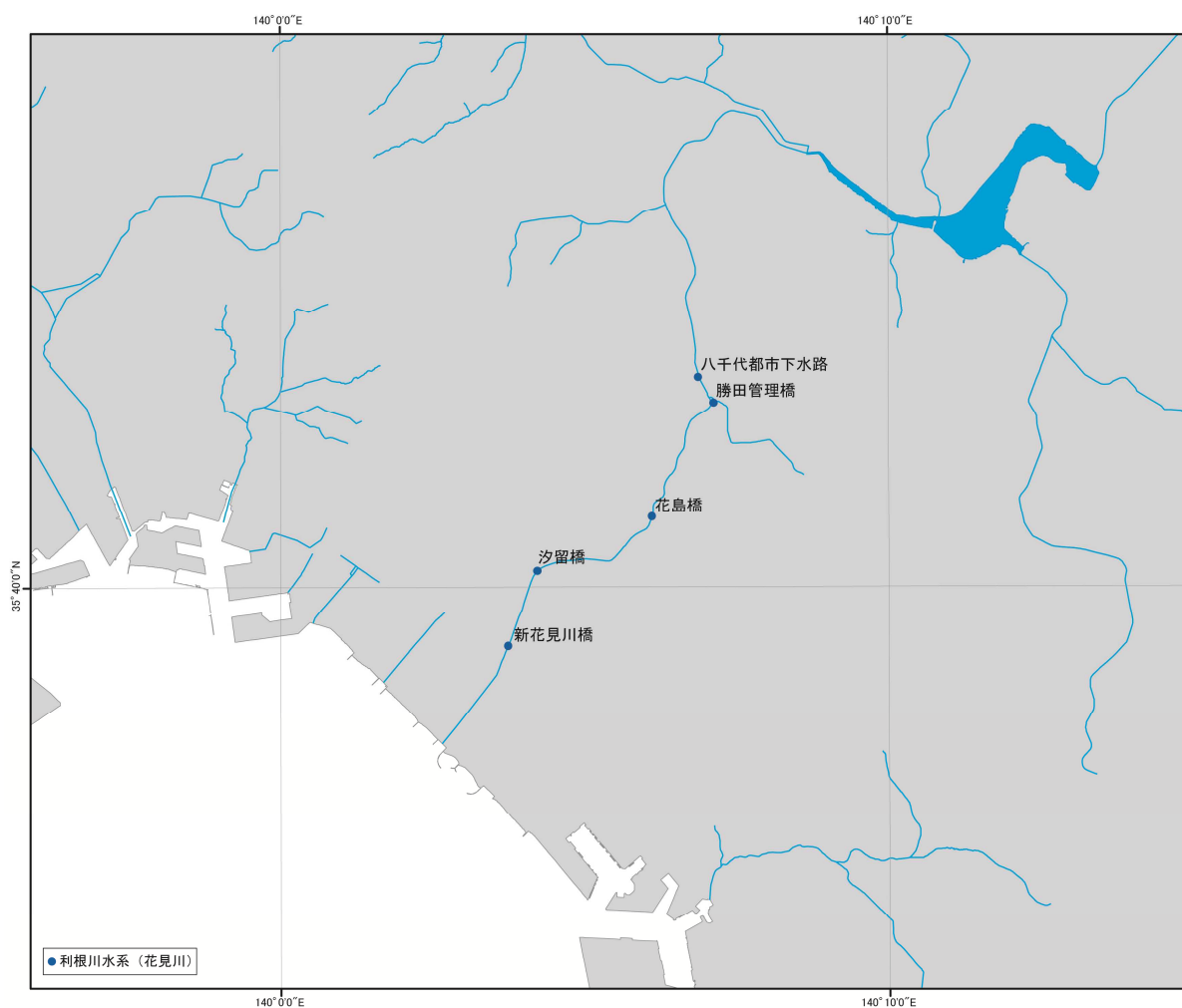


図 8-19 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における透視度（8 月）と
河口からの距離の関係

(4) 利根川水系②（花見川）

花見川の水温は、河口側の新花見川橋の 30.8 ℃から、上流の勝田管理橋の 24.8 ℃まで低下する傾向があり、上流の八千代都市下水路で 27.9 ℃まで上昇する傾向がありました。流量について昨年度より増加していますが、花見川は、印旛放水路として、上流の印旛沼の水位管理のために各所に設けられた水門や堰の稼働状況の影響を大きく受ける地点のため、流量の変動が大きい地点であると思われます。COD は、中流域の花島橋にて一旦 5.9 mg/L まで増加しますが、概ね河口部から上流へ向かい減少する傾向がありました。DO は、河口部から汐留橋まで増加しますが、以降勝田管理橋まで減少し、上流の八千代都市下水路で 17.1 mg/L まで再度増加する傾向がありました。透視度については、全観測点にて測定最大限界である 30 cm が記録され、昨年と変化はありませんでした。千葉市の透視度の測定には 30 cm が測定最大範囲の透視度計を用いているため、結果については“30 cm 以上”としています。



背景地図：「国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」を加工」、
「国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに内外地図が編集・加工」

図 8-20 利根川水系（花見川）流域における調査点図

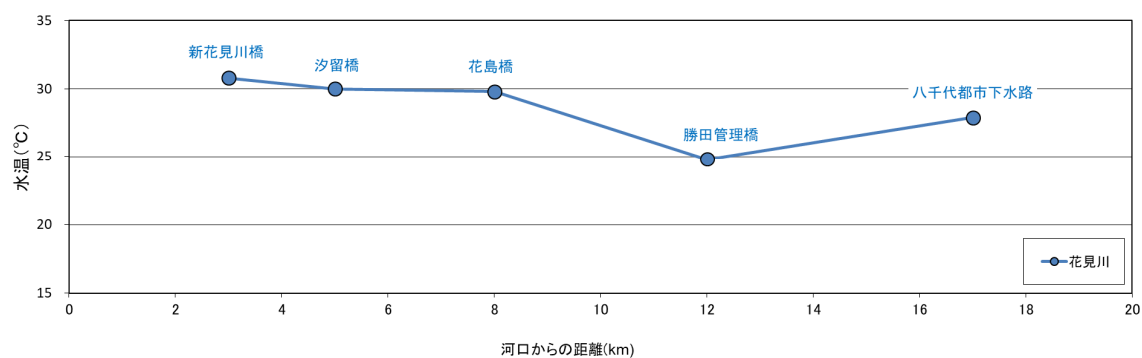


図 8-21 利根川水系（花見川）における水温（8 月）と河口からの距離の関係

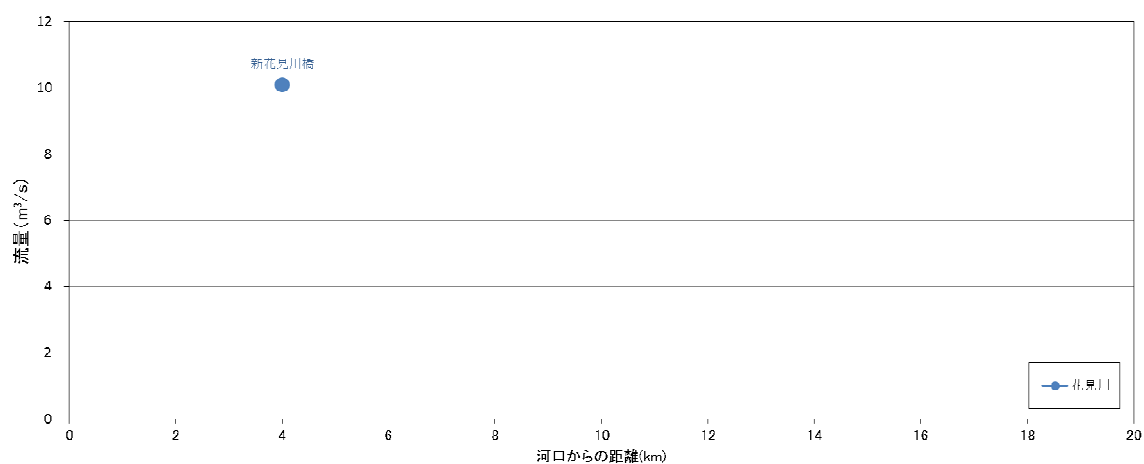


図 8-22 利根川水系（花見川）における流量（8 月）と河口からの距離の関係

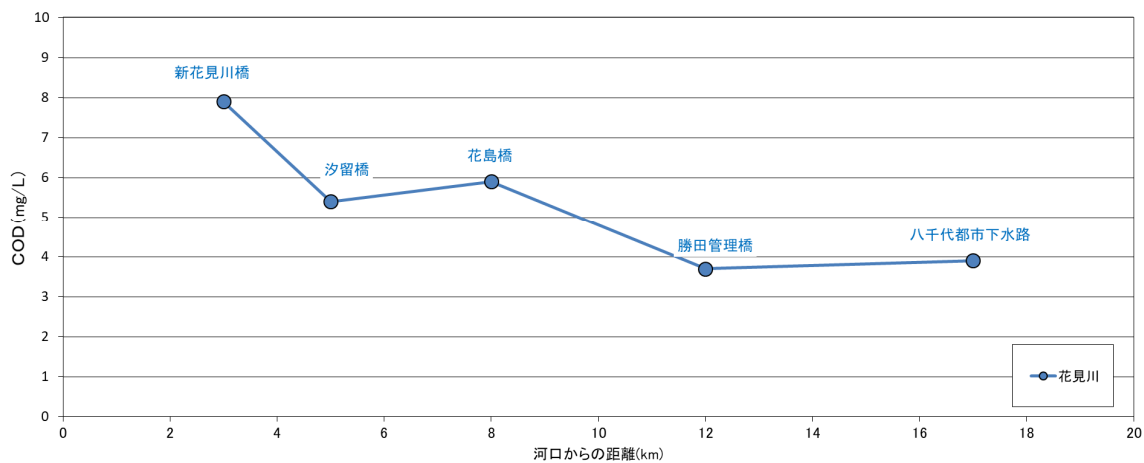


図 8-23 利根川水系（花見川）における COD（8 月）と河口からの距離の関係

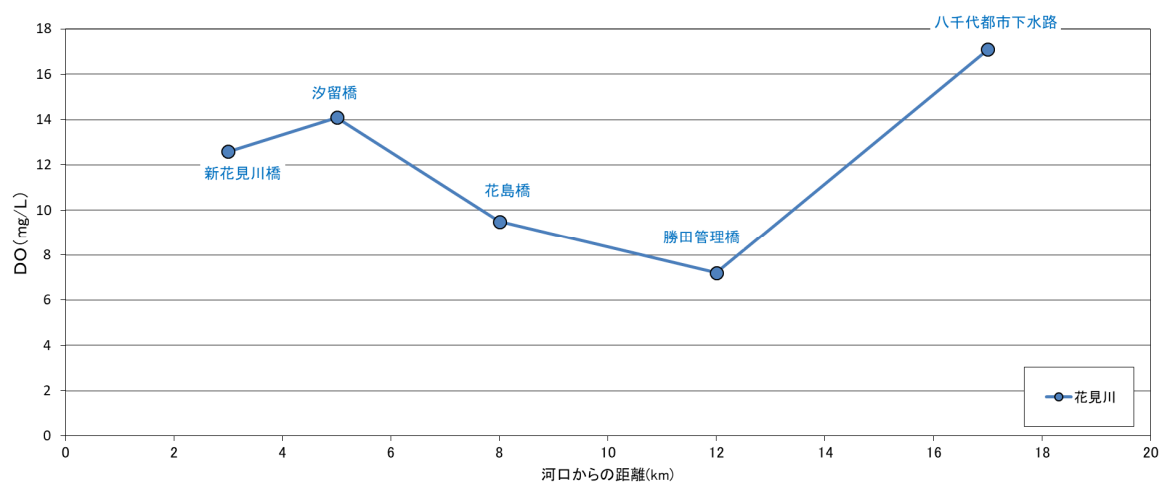


図 8-24 利根川水系（花見川）における DO（8 月）と河口からの距離の関係

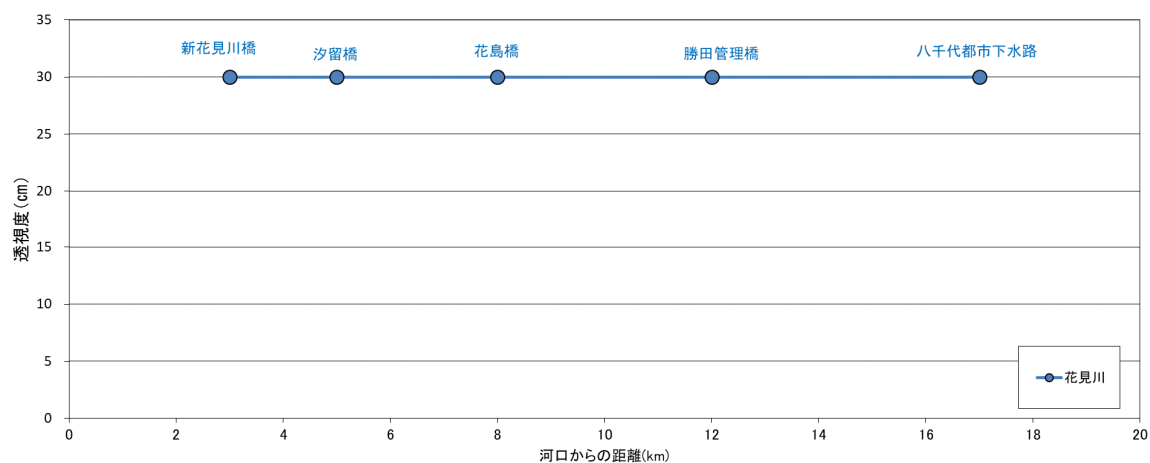
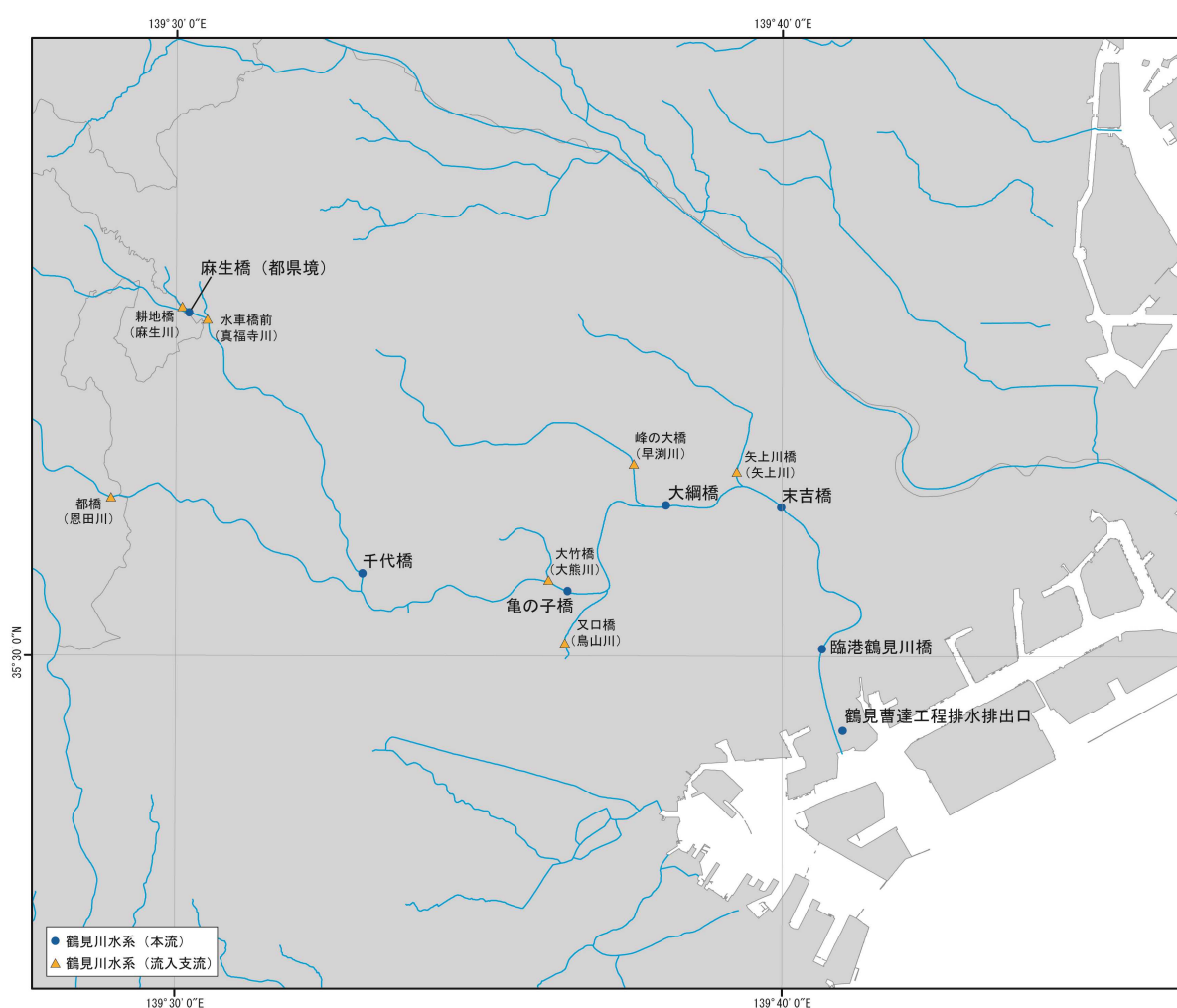


図 8-25 利根川水系（花見川）における透視度（8 月）と河口からの距離の関係

(5) 鶴見川水系

鶴見川水系の水温は、本流では河口から上流にかけて低くなる傾向にありました。支流では、ばらつきがありますが河口から上流にかけて低くなる傾向にあり、早瀬川（峰の大橋）において同水系で最も高い 31.2 ℃の値が観測され、鳥山川（又口橋）にて最も低い 25.4 ℃が観測されました。流量は、前述した他の河川に比べて値は小さく、全ての観測点において 5 m³/s を下回り、本流においては上流へ向かって減少する傾向にありました。COD は、本流では概ね 6～8 mg/L で推移しました。支流ではばらつきがあり、麻生川（耕地橋）にて同水系で最も高い 8.4 mg/L を観測し、鳥山川（又口橋）にて最も低い 3 mg/L が観測されました。DO は、本流では河口から千代橋にかけては減少し、麻生橋にて上昇する傾向にありました。一方、支流では、真福寺川（水車橋前）にて最大の 17.6 mg/L、早瀬川（峰の大橋）にて 10 mg/L と観測されましたが、概ね 5 mg/L から 8 mg/L の値が観測されました。透視度は昨年より減少し、透視度が観測された 11 観測点中、6 観測点で測定最大限界である 100 cm を観測しました。本流で亀の子橋より上流にて 3 観測点、支流でも 3 観測点で測定最大限界の 100 cm が観測されました。



背景地図：「国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」を加工、
「国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに内外地図が編集・加工」

図 8-26 鶴見川水系流域における調査点図



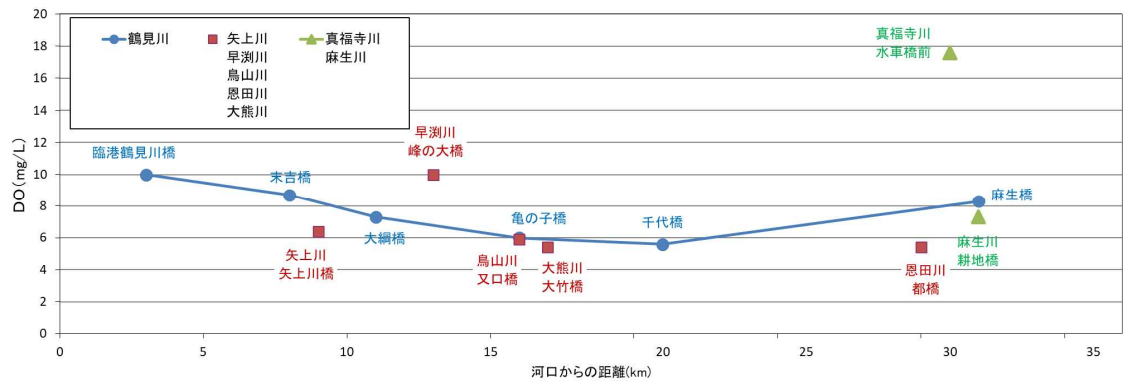


図 8-30 鶴見川水系における DO（8 月）と河口からの距離の関係

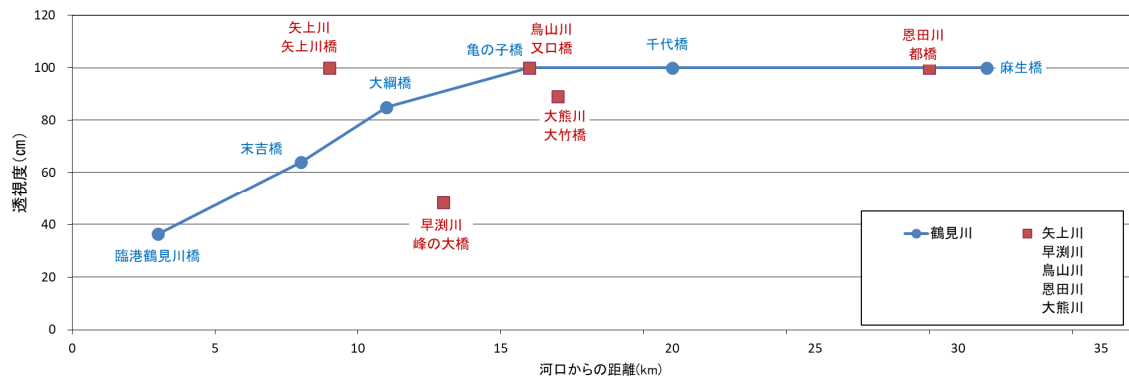


図 8-31 鶴見川水系における透視度（8 月）と河口からの距離の関係

9. 生物調査の実施実績

令和元年度の東京湾環境一斉調査における生物調査では、干潟調査及びその他の調査が実施されました。

9-1 干潟調査

(1) 干潟調査の概要

令和元年度は、東京湾の多摩川河口、荒川河口及びお台場海浜公園などの干潟を対象とし、そこに生息する生物種に焦点を合わせ、調査が実施されました。また、より多くの方に東京湾を身近に感じてもらうため、昨年度に引き続き干潟調査の一環として「カニ生息一斉調査」を実施しました。

(2) 調査参加機関

令和元年度は、7団体から干潟調査の結果について報告があり（表 9-1）、そのうちの5団体によりカニ生息一斉調査が実施されました。

表 9-1 干潟生物調査の実施実績

報告書 番号	実施機関	調査場所	実施日
①	出光興産株式会社	お台場海浜公園 海岸	9月25日
②	浦安三番瀬を大切にする会	浦安市三番瀬環境観察館地先	8月3日
③	大田区環境マイスターの会	多摩川河口大田区側	6月19日 7月2日 7月13日 7月14日 7月28日 8月1日
④	大森 海苔のふるさと館 (NPO 法人海苔のふるさと会)	大森ふるさとの浜辺公園	8月7日
⑤	三洋テクノマリン株式会社	荒川河口 (右岸小松川自然池周辺の干潟)	9月26日
⑥	ふなばし三番瀬環境学習館	ふなばし三番瀬海浜公園 地先の干潟	8月15日
⑦	NPO 法人東京港グリーンボラン ティア	東京港野鳥公園前浜干潟	8月11日 8月31日

(3) 干潟調査の結果

令和元年度の干潟調査は、7 団体により 7 地点で実施されました（図 9-1）。その結果、15 綱 71 種の生物の生息が確認されました（表 9-2）。特に多いのが軟甲綱で、25 種確認されました。また、確認された調査地点が最も多かったのがコメツキガニ及びタカノケフサイソガニで、5 地点で生息が認められました。

さらに、今回確認された生物種について、環境省レッドリスト 2019（平成 31 年 3 月）及び環境省版海洋生物レッドリスト（平成 29 年 3 月）への掲載の有無を調べたところ、絶滅危惧ⅠB 類（EN）と評価される種が 1 種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）と評価される種が 2 種、準絶滅危惧（NT）と評価される種が 6 種含まれていることが確認できました。また、生態系被害防止外来種リスト（環境省及び農林水産省、2016 年）への掲載の有無についても調べたところ、特定外来生物は含まれていなかったものの、総合対策外来種が 3 種含まれていることが分かりました。



出典：海洋状況表示システム（<https://www.msil.go.jp>）、国土地理院(GSI)

図 9-1 干潟調査の実施地点

表 9-2 干潟調査で確認された生物種

綱	科	種名		調査場所					環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリスト※	生態系被害防止 外来種リスト※
				東京		千葉				
				多摩川河口	荒川河口	お台場海浜公園	東京港野島公園前浜干潟	大森ふるさとの浜辺公園		
和名	学名							カテゴリ	カテゴリ	
真正紅藻	コノハノリ	ホソアヤギス	<i>Gelaglossa ogasawarenensis Okamura</i>		○				準絶滅危惧 (NT)	
緑虫	ミズクラゲ	ミズクラゲ	<i>Aurelia aurita</i>	○						
ヒドロ虫	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	<i>Olinas formosa</i>	○						
花虫	タテジマイノギンチャク	タテジマイノギンチャク	<i>Hydrozoa</i>		○					
(線形動物門)			<i>Helipianella lineata</i>		○					
			NEMERTINEA		○					
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>				○			
			-		○	○				
腹足	ニシキウスガイ	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>						○ 準絶滅危惧 (NT)	
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Redicussia festiva</i>							
	アツキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>			○				
	カワザンショウガイ	カワザンショウガイ	<i>Rapana venosa</i>						○	
			<i>Assimineidae</i>		○	○				
			<i>Arcutula senhousia</i>		○				○	
	イガイ	ムラサキガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>			○				総合対策外来種
		コウロエンカフヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>		○					総合対策外来種
	イタボガキ	マカキ	<i>Crassostrea gigas</i>		○	○				
	ハカガイ	ハカガイ	<i>Macra chinensis</i>							
	マテガイ	シオボキガイ	<i>Macra veneniformis</i>						○	
二枚貝	オキナガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>		○					
	シジミ	イトオリガイ	<i>Laternula maritima</i>							
		ヤマトシジミ	<i>Corticula japonica</i>		○	○				準絶滅危惧 (NT)
		オキシシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>							
	マルスダレガイ	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>						○	総合対策外来種
		ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>							絶滅危惧II類 (VU)
	シオサザナミガイ	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>							
	フネガイ	インシジミ	<i>Nuttallia olivacea</i>							
顎脚	フジツボ	サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>						○	
		シロスジフジツボ	<i>Fistuliculus albicostatus</i>		○	○				
			-		○					
	イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Othmanelus challenger</i>			○				
	フナムシ	キタフナムシ	<i>Lipis chinensis</i>		○					
		フナムシ	<i>Lipis exilis</i>			○				
	ヤドカリ	ツメナガヨコバサミ	<i>Olibanerus longicollis</i>			○				
		テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nididmanus Terao, 1913</i>						○	
			-		○					
	ホンヤドカリ	コビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus dubius</i>			○			○	
	アナジャコ	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>							
	コマツキガニ	チゴガニ	<i>Hydrellia pusilla</i>			○	○			
		コマツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>		○	○	○	○		
	オサガニ	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>						○ 準絶滅危惧 (NT)	
		ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>		○	○				
軟甲	ベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Sesamops intermedium</i>		○	○				準絶滅危惧 (NT)
		クロベンケイガニ	<i>Chromantes dehaeni</i>		○	○				
		アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>		○		○	○		
		カクベンケイガニ	<i>Parasasarma pictum</i>		○	○	○	○		
		クシテガニ	<i>Parasasarma plicatum</i>							
		アカテガニ	<i>Chromantes haematocheir</i>		○					
		メクスガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>							
		タカノケフサイノガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>		○	○	○	○		
		イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>		○	○	○	○		
	ヨブシガニ	マメコブシガニ	<i>Philyra pium</i>				○	○		
	テナガエビ	ユビナガサジエビ	<i>Palaeomon macrodactylus</i>		○	○				
	エビジャコ	エビジャコ属	<i>Orangon sp.</i>							
	スナモグリ	ニホンスナモグリ	<i>Callinassa japonica</i>		○					
	スナウミナナフシ	ムロミナウミナナフシ	<i>Oyathura murumensis Nunomura</i>	○						
甲殻	ガザミ	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>						○	
	タイワンガザミ	タイワンガザミ	<i>Portunus pelagicus</i>						○	
	イシガニ	イシガニ	<i>Charybdis japonica</i>						○	
軟骨魚	アカエイ	アカエイ	<i>Dasyatis akajei</i>			○				
	タイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>			○				
	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>			○	○			
		マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		○					
硬骨魚	マサゴハゼ	マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>		○					絶滅危惧II類 (VU)
	アベハゼ	アベハゼ	<i>Mugilogobius aiei</i>		○					
	トビハゼ	トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>		○					準絶滅危惧 (NT)
	ビリンゴ	ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>				○			
条鰭	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>							絶滅危惧II類 (EN)
	フグ	クサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i>			○				
鳥	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>			○				
		ヨリカキメ	<i>Larus ridibundus</i>		○					

※環境省レッドリスト／海洋生物レッドリスト：評価カテゴリーは絶滅 (EX)、野生絶滅 (EW)、絶滅危惧 1A 類 (CR)、絶滅危惧 1B 類 (EN)、絶滅危惧 2 類 (VU)、準絶滅危惧 (NT)、情報不足 (DD)、絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) の 8 つに分けられる。

絶滅危惧 2 類 (VU) は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧 (NT) は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」と定義される。

※生態系被害防止外来種リスト：定着を予防する外来種 (定着予防外来種)、総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)、適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種) の大きく 3 つに分類される。

表 9-3 干潟調査で確認された生物種（過年度との比較）

編	科	種名		調査年		
		和名	学名	平成28年 (12月1日現在)	平成30年 (12月1日現在)	令和元年 (12月1日現在)
種子植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>		○	
	コノハハリ	アヤギス	<i>Galiossa contina</i>	○		
	真正紅藻	ホノアヤギス	<i>Galiossa ogasawarensis Okamura</i>			○
蛸虫	オゴノリ	オゴノリ	<i>Gracilaria vermiculophylla</i>	○		
	オキクラゲ	アカクラゲ	<i>Chrysora pacifica</i>	○		
	ミズクラゲ	ミズクラゲ	<i>Aurelia aurita</i>	○	○	○
ヒドロ虫	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	<i>Olinidae formosa</i>		○	○
	ヒドロ虫類	ヒドロ虫類	<i>Hydrosia</i>		○	○
花虫 (線形動物門)	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Haliphanes lineata</i>		○	○
	-	-	NEMERTINEA			○
渦虫	ツノヒラムシ	オオツノヒラムシ	<i>Planocera multitentaculata</i>		○	
	ヒラムシ	-	-		○	
多毛	-	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>			○
	ゴカイ	アシナガゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>	○	○	○
	-	チロリ	<i>Glycera chironi</i>		○	
	-	-	-		○	
	ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	<i>Giriformia tentaculata</i>		○	
	ウロコムシ	-	-		○	
腹足	コガモガイ	シボリガイ	<i>Patelloida ryukyuensis</i>	○		
	ウミニナ	ホノウミニナ	<i>Batharia cuminii</i>		○	
	タマキビ	タマキビガイ	<i>Littorina brevicula</i>	○	○	
	ニシキウスガイ	イボキウス	<i>Umbonium moniliferum</i>			○
	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticularia fasciata</i>	○	○	○
	アツキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>		○	○
	-	アカニシ	<i>Rapana venosa</i>			○
	カワザンショウガイ	カワザンショウガイ	<i>Assiminea</i>			○
	イガイ	ホトケスガイ	<i>Arcuatula senhousia</i>	○	○	○
	-	ムササギガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	○	○	○
二枚貝	イタホガイ	コウロエンカフヒバガイ	<i>Kenos trochus securis</i>	○	○	○
	イタホガイ	マダモ	<i>Grassostrea nigra</i>	○	○	○
	イタホガイ	イタホガイ	<i>Meretrix chinensis</i>	○	○	○
	イタホガイ	シオフキガイ	<i>Meretrix veneriformis</i>	○	○	○
	-	-	-		○	
	マテガイ	マテガイ	<i>Solen striatus</i>	○	○	○
	ニッコウガイ	ヒメシロガイ	<i>Macoma incongrua</i>		○	
	フナガガイ	ウミナシトマヤガイ	<i>Trapa zumi</i>	○	○	
	オオノガイ	オオノガイ	<i>Mya arenaria sonogai</i>		○	
	オキナガイ	ソトリガイ	<i>Laternula maritima</i>	○	○	○
巻貝	シジミ	ヤマシジミ	<i>Gastropoda japonica</i>	○	○	○
	-	オキシジミ	<i>Gymina sinensis</i>	○	○	○
	-	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>	○	○	○
	マルスダレガイ	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	○	○	○
	-	カガミガイ	<i>Phacostoma japonicum</i>	○	○	○
	-	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	○
	カキ	-	-		○	
	シオサザナミガイ	イノシジミ	<i>Mutilla striata</i>			○
	アネガイ	サルボウガイ	<i>Saxidomus kagoshimensis</i>			○
	-	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>	○	○	○
蟹類	フジツボ	シロスジフジツボ	<i>Fistulabalanus albicostatus</i>	○	○	○
	-	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>		○	
	-	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>		○	
	-	-	-		○	○
	イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Githamalus chalconi</i>	○		○
	フナムシ	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>	○		○
	-	フナムシ	<i>Ligia exotica</i>	○	○	
	-	ツメナガヨコバサミ	<i>Gibbanus longitarsis</i>			○
	ヤドカリ	テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nieidmanus Terao, 1913</i>			○
	-	-	-		○	○
軟甲	ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus dubius</i>	○	○	○
	アナジャコ	アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	○	○	○
	ハサミヤコエビ	ハサミヤコエビ	<i>Laomedia astacina</i>	○	○	
	コメツキガニ	チゴガニ	<i>Hydula pusilla</i>	○	○	
	-	コメツキガニ	<i>Sesamoides phidippa</i>	○	○	
	オサガニ	オサガニ	<i>Macrophthalmus adriaticus</i>	○	○	
	-	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○	○	
	ベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Sesamoides intermedium</i>	○	○	○
	-	クロベンケイガニ	<i>Chironomites dehaani</i>	○	○	○
	-	アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	○	○	○
甲殻	ベンケイガニ	カクベンケイガニ	<i>Parasarma plicatum</i>	○	○	○
	-	アサガニ	<i>Parasarma plicatum</i>	○	○	○
	-	アサガニ	<i>Chironomites haematocheir</i>		○	
	モクズガニ	ウサギベンケイガニ	<i>Glyptostoma sinense</i>	○	○	
	-	ケフサイノガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	○	○	
	-	タカノケフサイノガニ	<i>Hemigrapsus talanoi</i>	○	○	
	-	イノガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>		○	○
	コブシガニ	マメコブシガニ	<i>Philtra pium</i>	○	○	○
	イワガニ	イワガニ	<i>Pachygrapsus crassipes</i>		○	
	テナガエビ	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	○		
魚	スジエビ	スジエビ	<i>Palaeomon paucidentis</i>	○		
	エビ	エビ	<i>Palaeomon serrifer</i>			○
	エビ	エビ	<i>Palaeomon macrodactylus</i>		○	○
	エビ	エビ	<i>Orangon sp.</i>			○
	スナモグリ	スナモグリ	<i>Callinectes japonica</i>		○	○
	スナウミナナフシ	スナウミナナフシ	<i>Oyathura muronensis Munomura</i>			○
	ウミナナフシ	ウミナナフシ	<i>Paranthura japonica</i>	○		
	ヨコエビ	-	-	○	○	
	-	チチュウカイミドリガニ	<i>Carabus aestuarii</i>	○	○	
	ワタリガニ	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>		○	○
魚類	フクロボヤ	マンハッタンボヤ	<i>Portunus setulosus</i>			○
	アカエイ	アカエイ	<i>Charybdis japonica</i>			○
	スズキ	スズキ	<i>Molgula menhadenensis</i>		○	
	タイ	タイ	<i>Diacyathus akajiri</i>	○	○	○
	イサキ	コシウダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	○		
	スズキ	スズキ	<i>Pleurothymus scintillus</i>		○	
	コサ	マゴチ	<i>Sillago japonica</i>		○	
	ギマ	ギマ	<i>Placochelone sp.</i>		○	
	ニシン	コノシロ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>		○	
	ボラ	ボラ	<i>Konosirus punctatus</i>		○	
硬骨魚	コイ	マルタ	<i>Mugil cephalus</i>	○	○	○
	-	マハゼ	<i>Tribolodon brandi</i>		○	
	-	ミズハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○	○	
	-	マサゴハゼ	<i>Luciogobius aitatus</i>	○	○	
	-	ヒモハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	○		○
	-	アベハゼ	<i>Eucinostomus argenteus</i>		○	
	-	トビハゼ	<i>Micropogonias undulatus</i>		○	
	-	チヌ	<i>Periophthalmus modestus</i>		○	
	-	ベリリンゴ	<i>Tridentiger obscurus</i>		○	
	-	ウナギ	<i>Gymnogobius breunigii</i>		○	○
魚類	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>			○
	フグ	フグ	<i>Taifuugu aboumbensis</i>			○
鳥	カモメ	カモメ	<i>Larus crassirostris</i>			○
	-	カモメ	<i>Larus ridibundus</i>			○



ホソアヤギヌ



ヒドロ虫綱



紐形動物門



ゴカイ科



カワザンショウガイ
科



マガキ



マテガイ



ヤマトシジミ



ハマグリ



イソシジミ



シロスジフジツボ



キタフナムシ



ヤドカリ



コメツキガニ



ヤマトオサガニ



ベンケイガニ

図 9-2 東京湾の干潟で確認された生物



クロベンケイガニ



カクベンケイガニ



アカテガニ



タカノケフサイソ
ガニ



マメコブシガニ
(上) イソガニ
(下)



ユビナガスジエビ



エビジャコ属



エビ類



ニホンスナモグリ



ムロミスナウミナ
ナフシ



アカエイ



マハゼ



マサゴハゼ



アベハゼ



トビハゼ



ニホンウナギ

図 9-3 東京湾の干潟で確認された生物